

令和6年度 1学年 国語科 年間指導計画

月	単元名 項目名	時 数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
4	ガイダンス 声を届ける 書き留める 言葉を調べる  「朝のリレー」 「野原はうたう」	1 4 2 3	○授業について評価方法について知る。 ○音読、発表のしかた、ノートの書き方、工夫のしかたを理解する。 ○辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ○作者のものの見方や感じ方を捉えようとする。  ●それぞれの詩に描かれた世界を読み取り、音読する。 ●小学校のときのノートの取り方と比較させる。	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。  ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたについて理解を深め、それらを使っている。		・音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、音読しようとしている。
5	「シンジュン」  情報を正確に聞き取る  情報を整理して書こう  書写	4 2 4 2	○登場人物の気持ちの変化を他の人物との関係の中で読み取る。 ●場面の展開に著目して、人物の変化をとらえる。 ○連絡を聞き、メモを取る。 ●効果的なメモの取り方を考えさせる。  ○紹介文を書く。 ●情報の集め方、整理の仕方を考えさせる。  ○硬筆の書き方を学ぶ。	・語句の量を増やし、語感を磨き、語彙を豊かにしている。  ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基にとらえている。  ・日常生活の中から題材を決め、情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。	・場面の展開について、描写を基に積極的にとらえ、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。  ・集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。  積極的に硬筆の書き方を理解しようとしている。
6	「ダイコンは大きな根？」  「ちょっと立ち止まって」  意見と根拠  好きなことをスピーチで紹介する  文法  書写	4 4 1 2 2 3	○形式段落の役割について考える。 ●接続する語の前後の文や、段落がどのようにつながっているかを考える。  ○文章の構成に着目し、その効果を考える。 ●結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。  ○「おすすめの場所」を紹介する ●目的と相手、説明する題材を決め、わかりやすい書き方を工夫する。  ○「自分の好きなこと(もの)」の中から、紹介したい話題の一つを選び、スピーチをして紹介する。 ●聞き手にとってわかりやすい話の順序を考え、制限時間に収まるように材料を取捨選択する。  ○「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いと各々の特徴を理解する。  ○楷書の漢字の特徴を捉え、毛筆で書く。	・原因と結果、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解している。  話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチしようとしている。  楷書体の特徴を捉えている。	・文章の中心的な部分と付加的な部分をとらえ、要旨を把握している。  目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。  聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。	・文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的にとらえ、筆者の工夫を伝え合おうとしている。  進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。  意見と根拠の結びつきを考える。  文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。  毛筆での運筆に慣れ、積極的に書こうとしている。
7	詩の世界 比喻で広がる言葉の世界  指示する語句と接続する語句  書写	4 2 2 4	○三編の詩の表現を参考にして、詩を作る。 ●印象に残った表現や例を参考にして、詩を書く。 ○比喻による表現の違い。 ●身の回りにある「比喻の発想」が生かされた言葉を見つけて、友達に報告する。 ○指示する語句と、接続する語について理解する。  ○楷書で字と字のバランスを考えながら、漢字と仮名を交えて書く。	・比喻などの表現の技法を理解し使っている。 ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。	「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。  漢字と仮名のバランスを考えようとしている。
8 9	読書を楽しむ  おとなになれなかった弟たちに・・・  星の花が降るころに  聞き上手になろう  方言と共通語	2 5 4 2 2	○教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ●「ポップ作り」「読書掲示板」「読書記録」の中から選び、作品を作成する。  ○描写に着目して、登場人物の心情をとらえる。 ●題名や表記に込められた作者の意図を考える。  ○場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する ●提示された場面や描写を比べることで、どんなことが読み取れるか、話し合う。  ○「夏休みのいちばんの思い出」をテーマに、対話の練習をする。 ●話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫する。  ○共通語と方言の果たす役割について理解する ●導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。  比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。  話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。  必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。	今までの学習を生かして、本の魅力や感想を伝え合おうとしている。  登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的にとらえようとしている。  積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。

10	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ  根拠を示して説明しよう  話題や展開を捉えて話し合おう  文法	4  4  4  2	○文章の構成や展開について、根拠を明確にして読み、考える。 ●原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係に着目して読む。  ○図表などを引用してレポートを作成する。 ●自分の考えに説得力をもたせるために資料を引用し、レポートの構成に沿ってまとめる。  ○グループディスカッションをする。 ●少人数で司会と書記を決め、グループで話し合う。  ○「文節どうしの関係」を理解する。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。  単語の類別について理解している。	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。  話題や展開をとらえながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	積極的にグループディスカッションをしようとしている。
11	いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から  今に生きる言葉 「矛盾」  書写	2 1 4  1 3  3	○古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。 ○古典の文章について、現代の文章との違いを確かめながら読む。  ●現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめながら読む。  ○故事成語を使って体験文を書く。 ●体験を整理させ、具体的な状況が故事成語と重なるようにさせる。  ○行書の漢字の特徴を捉える。	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。	古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。  積極的に行書の字体の特徴を捉えようとしている。
12	不便の価値を見つめ直す  助言を自分の文章に生かそう  文法  書写	4  3  2  4	○根拠を明確にして、意見をまとめる。 ●教科書の条件に沿って自分の考えを書く。  ○どの観点から論じるかを決め、書評を書く。 ●友達どうして書評を読み、助言し合う。  ○「連文節」「文の組み立て」を理解する。  ○行書の漢字の特徴を捉える。	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。  「連文節」「文の組み立て」について理解を深めている。	読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。  積極的に行書の字体の特徴を捉えようとしている。
1	書写  少年の日の思い出  文法	2  6  2	○楷書・行書の特徴を活かしなが、書初め課題に取り組む。  ○作品の展開を捉え、「僕」の心情の変化をまとめる。 ●語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読む。  「自立語と付属語」、「活用の有無」について理解する。	単語の類別について理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	積極的に作品を仕上げようとしている。
2	随筆二編  構成や描写を工夫して書こう  さまざまな表現技法  文法 書写	3  3  2  2  4	○筆者の考えや思いについて話し合う。 ●場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する  ○体験を基に随筆を書く ●体験や思いを伝えるために、言葉を吟味して選ぶ。  ○表現技法によるリズムの違いや効果について考える。  ○「品詞」、「体言と用言」について理解する。  ○季節の言葉を書く。	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。  単語の類別について理解している。	「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。	粘り強く文章の構成や展開を考え、随筆を書こうとしている。  今までの学習事項を生かして作品を書こうとしている。
3	一年間の学びを振り返ろう  さくらの はなびら	6  4	○要点をフリップにまとめ、発表する ●分類したり比較したりして整理する。 整理した情報を基に、発表する内容を選ぶ。  ○詩を読み、印象に残った表現を発表する。 ●詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。	聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を変えるなどの工夫をしている。  詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。
評価方法			・小テスト ・授業内課題 ・定期考査	・発言・発表 ・話し合い活動 ・課題作文 ・定期考査	・授業観察 ・提出物（ノート・ワークなどの内容）	
比率			1 / 3	1 / 3	1 / 3	

令和6年度 2学年 国語科 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
4	「見えないだけ」  「アイズプラネット」	1	○表現の特徴を通して作品を理解する。内容にふさわしい朗読をする。	詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。(1エ)		進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
		7	●グループワークを中心にワークシートをまとめる。	登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。(1エ)	ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係を人物相関図にまとめている。(C1ア)	積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
5	「枕草子」  「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」  「クマゼミ増加の原因を探る」	4	○作者のものの見方や感じ方を読み取る。 自分流「枕草子」を書く。	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3イ)	理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C1オ)	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
		6	○目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2イ)	調べてみたい職業を決め、知りたいことに適した方法を考え、情報を収集している。また、収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを取捨選択している。(B1ア)	粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。
		5	○説明文を読むための読み取りや、理解を深めるための図表などの扱いに慣れる。	文章の構成や展開について理解を深めることができる。(1オ)	文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C1ア)	積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
6	「魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする」  文法・書写	6	○提案内容を決めて、話の構成や提示資料を工夫し、プレゼンテーションをする。 ●グループごとにプレゼンテーションをする。	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1ア)	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A1イ)	粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
		5	○自立語について学ぶことを理解する。 ○硬筆の書き方を学ぶ。 ●プリントを中心に反復する。 ●硬筆の練習清書をする。	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1オ)	資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A1ウ)	今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。 積極的に硬筆の練習に取り組んでいる。
4	「情報社会を生きる」 「自分で考える時間」をもとう	4	○メディアを比べて、特徴を理解し、情報の受け取る際の留意点を考える。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2イ)	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C1イ)	粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。
		4	○メディアを比べて、特徴を理解し、情報の受け取る際の留意点を考える。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2イ)	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C1エ)	
7	「短歌に親しむ」 「短歌を味わう」  「言葉の力」	6	○短歌を朗読し表現方法、味わい方を知る。 ●表現方法を知り、短歌を鑑賞し、創作する。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1エ)	観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。(C1エ)	進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
		3	○言葉について知識や経験と結び付け、自分の考えを広げ、深める。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3エ)	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B1ウ)	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
		3	○さまざまな読書活動を知る。 ●グループごとに活動を	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたり	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C1エ)	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習

			行い、感想を発表し合う。	する読書に生かしている。(3)エ)		を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
9	「盆土産」	5	○時代背景をふまえ登場人物の言動に着目し心情を考える。 ●ワークシートを用い、グループワークで場面ごとに内容理解をする。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
	「字のない葉書」	3	○表現の効果に着目して随筆の味わい方を知る。 ●グループ発表を通してさまざまな読み方を知る。	表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読んでいる。(3)エ)	、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
	「表現を工夫して書こう」	4	○社会生活に必要な手紙や電子メールを比較し、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)	自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。(B(1)ウ)	積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
10	「敬語」	2	○敬語の働きについて理解す。	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)		今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
	「モアイは語る——地球の未来」	5	○文章の構成に着目し、意見と根拠、具体と抽象などの関係について理解し、自分の考えを書く。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ)	粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
	「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」	4	○適切な根拠を用い構成を工夫して意見文にまとめる。 ●意見文を友達と読み合う。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考慮して描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
	「立場を尊重して話し合おう」	4	○立場を明確にし、根拠と共に意見を述べる。 ●相手の立場を尊重しながらグループで討論する。	説得力のある根拠と共に、意見をまとめている。(2)ア)	地域や社会で話題になっていることの中からテーマを決め、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。(A(1)ア)	進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
					互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話している。(A(1)オ)	
11	「月夜の浜辺」	1	○言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読している。(1)イ)	詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
	「平家物語」 一扇的	5	○作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しみ、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を理解する。	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	「徒然草」 —仁和寺にある法師	4	○古典の文章に慣れ、作者の見方や考え方を考える。	古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。(3)ア)	師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合っている。(C(1)オ)	作者や作品について興味を持ち、積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
	「漢詩の風景」	4	○漢詩を朗読し、独特の言葉遣いや調子を読み味わう。	漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。(3)ア)	好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている(C(1)エ)。	進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。
12	「君は「最後の晩餐」を知っているか」	5	○文章を比較して読み、理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果を理解する。	筆者が、どのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「かっこいい。」(抽象)と述べているのかを理解している。(2)ア)	二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。(C(1)イ)	粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
	「最後の晩餐」の新しさ			二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している(2)イ)。	文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。(C(1)エ)	
	「魅力が効果的	2	○作品の魅力が伝わるよ	作品の魅力伝える言葉にはどんな	作品の魅力が伝わるよう、作品に描	進んで表現の効果を考慮して描写

	に伝えよう」 「鑑賞文を書く」		うに、言葉や表現をどのように工夫し、鑑賞分を書く	ものがあるかを考え、より効果的な語句や表現を選んでいる。 ((1)エ)	かかれている様子を具体的に説明している。 (B(1)ウ)	し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
	文法・書写	5	○日本語文法の基礎を学ぶ。	用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。 ((1)オ)		進んで文法事項の習得に取り組んでいる。
1	書写	3	○書初めの書き方を学ぶ。 ●作品に応じて楷書、行書で丁寧に書く。	条幅紙に丁寧に美しく、余白を考えて書くことができる。		積極的に毛筆の練習、清書に取り組んでいる。
	「走れメロス」	6	○登場人物の人物像や表現の効果などに着目して、作品の魅力を考える。 ●グループで自分の考えを理由とともに伝えあう。	作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 ((1)エ)	「メロス」や「王」の言動に着目し、人物の考え方や心情の変化を読み取っている。 (C(1)イ) 行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。 (C(1)オ) 登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 (B(1)ウ)	粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
	文法	3	○付属語の働きについて考える。	助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 ((1)オ)		今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
2	「構成や展開を工夫して書こう」 「ある日の自分」の物語を書く	4	○これまでに学習してきた物語や小説を振り、場面の展開を工夫して書く。	これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り、どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えている。 ((1)オ)	起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。 (B(1)イ) 書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 (B(1)オ)	粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
	「話し言葉と書き言葉」	2	○話し言葉と書き言葉の違いについて考える。	話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 ((1)イ)		今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
	「送り仮名」	2	○送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。	送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 ((1)ウ)		送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 ((1)ウ)
	「国語の学びを振り返ろう」	4	●プリント ○グループで話し合い、壁新聞を作る。	結論を見出しに、詳細を本文に書くなど、構成を工夫して記事を書いている。 ((1)オ) 壁新聞のテーマを話し合う際に出た意見を、表などを用いてまとめている。 ((2)イ)	伝えたいことの優先順位を考えて、記事の大きさや割り付けを工夫している。 (B(1)イ) 読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫している。 (B(1)エ)	粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。
3	「木」	2	○詩を朗読し、作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考える。	「愛」、 「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。 ((1)エ)	自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 (C(1)オ)	進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
	文法・漢字学習を振り返ろう	3	○第1学年までに学習した常用漢字と、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読む。	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読んでいる。 ((1)ウ)		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
	書写	2	○硬筆の書き方を学ぶ。	硬筆を丁寧に美しく、バランスを考えて書くことができる。		積極的に硬筆の練習、清書に取り組んでいる。
	評価方法			・定期考査 ・小テスト ・書写作品 ・聞き取りテスト ・朗読発表	・ワークシート ・作文 ・俳句などの作品 ・定期考査 ・朗読発表	・授業観察(発言・発表・授業態度など) ・提出物(ノート・ワークなど) ・発言 ・発表 ・スピーチ
	比率			1 / 3	1 / 3	1 / 3

令和6年度 3学年 国語科 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
4	「世界は美しいと」	2	○表現の特徴を通して作品を理解する。内容にふさわしい朗読をする。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)		進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
	「握手」	7	●グループワークを中心にワークシートをまとめる。	時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。((1)イ)	「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。(C(1)ア)	粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。
5	「学びて時に之を習ふ」	2	○論語についての理解を深める。	教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。((3)ア)	孔子の人間の生き方に関する考えを、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。(C(1)エ)	人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	「文章の種類を選んで書こう」	4	○目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする。	随筆、物語、報道文など、さまざまな種類の文章があることを理解している。((1)ウ)	「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。
	「作られた「物語」を超えて」	5	○説明文を読むための読み取りや、理解を深めるための小見出しの扱いに慣れる。	ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。((2)ア)	論説の特性を踏まえ、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。(C(1)ア)	進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。
6	「説得力のある構成を考えよう」	4	○自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。	情報の発信者、出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。((2)イ)	話す目的や相手を明確にし、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を選んでいく。(A(1)ア)	相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。
	文法・書写	7	○日本語文法の基礎を学ぶ。 ○硬筆の書き方を学ぶ。 ●プリントを中心に反復する。 ●硬筆の練習、清書をする。	日本語文法の基礎を習得している。 楷書、行書の違いを理解し、書き分けることができる。		進んで文法事項の習得に取り組んでいる。 積極的に硬筆の練習に取り組んでいる。
7	「実用的な文章な文章」	4	○論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。	実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認している。((2)イ)	事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えている。(C(1)イ)	積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて進んで評価し、学習課題に沿って報道の文章を比較し、考えをまとめようとしている。
	「俳句の可能性」「俳句を味わう」	4	○俳句の文学史的位置づけ、俳句の表現方法、味わい方を知る。 ●文学史、俳句の表現方法を知り、俳句を鑑賞する。	俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。((1)イ)	伝えたいことが効果的に伝わる構成(語順)を考えて、俳句を創作している。(B(1)イ)	進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。

9	「挨拶」	3	○日本の詩の歴史について知る。現代詩の表現方法を知る。言葉のひとつひとつを味わう。 ●連ごとにまとめ、グループワークで理解していく。	比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。(1)イ	詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について自分の考えをまとめている。(C1)ウ	詩の構成や表現のしかたについて積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
	「故郷」	9	○時代背景や作者の経歴をふまえ小説を読み、登場人物の心情を考える。 ●ワークシートを用い、グループワークで場面ごとに内容理解をする。 ●グループ発表を通してさまざまな読み方を知る。	文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。(3)オ	自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。(C1)イ	粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
10	「人口知能との未来」	5	○文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える。	自分の知識や経験と比べ、筆者の意見や根拠に納得できるかどうか検討しようとしている。(2)イ	自分の立場を明確にし、根拠となる事実を引用するなどして、自分の意見を書いている。(C1)エ	積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
	「多角的に分析して書こう」	4	○表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫する。	具体的な題材を基に、その価値についてまとめている。(2)ア	自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書いている。(B1)ウ	粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
11	「合意形成に向けて話し合おう」	4	○進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする。	複数の発言の共通点を結び付けて、一つの提案にまとめている。(2)ア	提案を分類・整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合っている。(A1)オ	合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
	「初恋」	2	○表現の特徴を通して作品を理解する。内容にふさわしい朗読をする。	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読している。(1)イ	文語定型詩の構成や場面の展開に注意して、表現された情景や心情を想像している。(C1)ウ	進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしようとしている。
	「君待つと」	3	○歌集の時代背景を知り、和歌に込められた心情や技法について学ぶ。	三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や情景を想像している。(3)ア	心情や情景、和歌の表現方法などについて自分の考えをもっている。(C1)ウ	進んで和歌の表現のしかたについて評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。
12	「夏草」	5	○時代背景と松尾芭蕉の生き方を知り、ものの見方考える。 ○古典文法の基礎に触れる。	作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読している。(3)ア	芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と比較している。(C1)エ	人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
	「誰かの代わりに」	4	○文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読んでいる。(1)イ	文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめている。(C1)エ	人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。
	文法・書写	8	○日本語文法の基礎を学ぶ。 ○硬筆の書き方を学ぶ。 ●作品に応じて楷書、行書で丁寧に書く。	日本語文法の基礎を習得している。 硬筆を丁寧に美しく、余白を考えて書くことができる。		進んで文法事項の習得に取り組んでいる。 積極的に硬筆の練習、清書に取り組んでいる。
1	「エルサルバドルの少女 ヘスース」	3	○文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。	二つのノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりする。(3)オ	読書を通して、考えたことや気づいたことをノートに書いたり、「私のおすすめ」として紹介したりしている。(C1)エ	進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。

	「温かいスープ」	3	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 ((3)オ)	自分の生き方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何か自分の考えをまとめている。(C(1)エ)	人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
2	まとめ 問題演習と理解	9 10	○漢字、熟語、慣用句、漢文訓読のまとめ ●プリント ○総合問題に取り組むことで、国語力の再確認をし苦手な分野を復習する。 ●総合問題 作文	漢字、熟語、慣用句、漢文訓読について理解している。 読む、聞く、書く、話す力が総合的に付いている。		進んで取り組むことができる。 進んで課題に取り組むことができる。
3	「私を束ねないで」 書写	2 2	○詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。 ○硬筆の書き方を学ぶ。 ●作品に応じて楷書、行書で丁寧に書く。	言葉の使われ方や表現の特色に気をつけながら詩を朗読している。 ((1)イ) 硬筆を丁寧に美しく、余白を考えて書くことができる。	詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会状況や人間の生き方について考えている。(C(1)エ)	詩を読んで進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。 積極的に硬筆の練習、清書に取り組んでいる。
	評価方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> <li>・書写作品</li> <li>・聞き取りテスト</li> <li>・朗読発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・作文</li> <li>・俳句などの作品</li> <li>・定期考査</li> <li>・朗読発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察(発言・発表・授業態度など)</li> <li>・提出物(ノート・ワークなど)</li> <li>・発言</li> <li>・発表</li> <li>・スピーチ</li> </ul>
	比率			1 / 3	1 / 3	1 / 3